

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 前田 幸	職名 講師	学位 助産修士 (専門職) 天使大学 2006 年
---------	-------	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
助産学、母性看護学	助産ケア、助産師外来、バースレビュー、出産想起、分娩の振り返り、助産 (師) 学生、分娩介助、乳がん検診

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・分娩体験におけるバースレビューの意義や役割について考察する ・妊娠期からの胎児へのコミュニケーションが愛着に与える影響について考察する ・助産師学生の分娩介助の習得過程に関して考察する ・乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学びについて考察する

担 当 授 業 科 目
<p>【助産別科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産診断・ケア学Ⅰ 妊娠期 (前期) ・助産診断・ケア学Ⅴ 周産期のハイリスク (前期) ・助産診断・ケア学Ⅶ 助産過程演習 (通年) ・助産学研究演習 (通年) ・実習：助産学基礎実習 (前期) 助産学実習Ⅰ・助産学実習Ⅱ・助産管理実習 (後期) <ul style="list-style-type: none"> ・助産診断・ケア学Ⅱ 分娩期 (前期) ・助産診断・ケア学Ⅵ 健康教育演習 (通年) ・女性の健康支援 (前期) <p>【看護学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母性看護方法論 (2年後期) ・母性看護学演習 (3年前期) ・母性看護学実習 (3年後期～4年前期) ・ウイメンズヘルス (3年前期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>2020 度は、新型コロナウイルス感染症拡大の為、遠隔授業と対面授業を併用した授業形態となっている。</p> <p>授業科目名【助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ】</p> <p>助産別科すべての授業が遠隔授業からのスタートとなったが、助産診断・ケア学では、例年通り各領域の基礎的知識及び助産技術習得ができるように、事前課題やワークシートなどを用い、学生自身が主体的に自ら考え、意欲・関心が得られるように、より細やかなフォローをするなど工夫した。</p> <p>遠隔授業でも、グループディスカッションや発表を取り入れるなど学生同士の学びの共有ができる工夫を行った。演習においては、感染対策を取りながら対面授業を中心に行っていた。机上の学習で得た知識を統合させ、助産ケアの実践につながるよう、担当教員とともにデモンストレーションの工夫を行い、また、実習で体験する場面やケアなどを取り入れていった。最新のガイドラインなどを意識し、活用しながら演習を実施し工夫した。</p> <p>1. <u>助産診断・ケア学Ⅰ (妊娠期)</u> では、ワークシートを用い、個人ワークとグループワークを併用しながら基礎的知識の習得のための授業を実施した。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行った上で臨むようにした。実習において、必須である妊婦健診や保健指導に伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、演習内容に妊婦と助産師役、第3者の視点も含めロールプレイを行い、ケアに結び付けられるよう演習を組み立て取り組んだ。演習後は、観察したことをアセスメントするとともに、経験したことに対する振り返りの機会をもった。また、模擬妊婦体験を通して、日常生活を妊婦として体験する機会もち、その経験を共有しケアへ結びつけることができるように工夫した。</p>

2. 助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）では、事前課題に取り組んでもらうと共に、分娩期の生理・分娩経過に伴う産婦や胎児の変化、支援方法について学生自身が自ら考え、意欲・関心が持てるようにDVD視聴や模型を使用し、授業を実施した。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行ったうえで臨むようにした。産婦人科ガイドラインや助産業務ガイドラインを中心に臨床での基準に沿って、また科学的根拠を持って、技術を実践できるよう意識づけを行った。実習において、必須である分娩介助やそれに伴う技術としては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、事例を用いての演習を組み立てて取り組んだ。また、感染対策についても学生自身がより意識して行動できるように工夫した。

授業科目名【助産学基礎実習】

新型コロナウイルス感染症拡大の為、学内実習を実施した。臨床での実習と同レベルでの経験ができるように担当教員と共に、準備を行い取り組んだ。実習目標の到達に沿って、基本的な助産技術の習得および助産過程の展開ができるように学生の支援を行った。特に基礎実習では、対象者を捉えることからはじめ、母子の安全を考え、また科学的根拠に基づいたケアを学生が提供できるように各妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の事例を用い実習を実施した。また、より臨床での実習に近づけるため、小チーム制を取り入れ、それぞれのチームを担当教員が受け持った。実習計画発表・報告、申し送りなども経験できるよう工夫を行うと共に、リアルタイムで時間を意識しながら実習を行った。

学生個々の価値観等を考えながら支援するとともに、学生の実習に対して、助産ケアに関して、フィジカルアセスメントを考えようとして、今後どのようなことが予測されるか、対象者に今必要なケアは何か、学習で得た知識を活用し、考えることができるようにフィードバックを行い工夫した。

授業科目名【助産学実習Ⅰ・Ⅱ・管理】

新型コロナウイルス感染症拡大の為、臨地での実習と学内実習のハイブリット型で実習を実施した。すべての学生が臨床での経験ができるよう教員間で話し合い、実習を組み立てていった。また、臨地実習で学生が経験した事例を学内実習で共有するなどの工夫を行った。

実習目標の到達に沿って、助産技術の習得および助産過程の展開ができるよう学生の支援を行った。特に助産学実習Ⅰ・Ⅱでは学生が対象者や家族を多角的に捉え、気づき、対象者に寄り添ったケアを提供できるように意識して、学内実習では事例を用い実習を実施した。正常経過と逸脱経過の判断を行いながら、倫理的視点を常に持ち、ケアを行えるよう助言等の工夫をした。臨床での実習では、臨床指導者や他の教員と連携をとり、適宜、意見交換しながら支援するとともに、学生がより個別性を考えたケアを行うことができるように工夫して、フィードバックを行った。また、正常からの逸脱の事例を経験した学生には、1つ1つの場面やケアの振り返りを行う機会を持つとともに、グループ間での情報共有やディスカッションを通し、より客観的に学びを共有することができるよう支援した。また、助産学実習Ⅱに関しては、ハイリスク疾患を経験した妊産婦の方の声や思いを調べ、共有することでより対象者の立場に立ったケアができるように工夫した。助産管理実習は、臨地実習を通して学生の学びがより深まるように臨床指導者と連携を取りながら振り返りを大切にに関わり工夫した。

授業科目名【母性看護方法論】

今年度は、産褥期/新生児期を担当した。新型コロナウイルス感染症拡大の為、担当する後半の授業は全て遠隔授業となったが、学生が母性看護学に興味を持てるよう授業の導入に映像を取り入れるなどの工夫をした。また、主体的に学習ができるように、事前に講義資料を提示するとともに、予習範囲を提示した上で講義をすすめた。講義の中でワークシートを用いた学習や小テストなどを取り入れ、学生自身が知識の習得状況を確認できる機会を設けた。事例や周産期の現場で起こりうること、看護者としての考え方や対象者との関わり方、また学生自身の身体と結び付けるような情報を講義で紹介し、学生が教科書の知識と結び付けてイメージしやすいように工夫した。

授業科目名【母性看護学演習・実習】

母性看護学演習では、前半部分の看護過程に関しては遠隔授業で授業を実施した。遠隔授業であっても、助産過程の習得ができるように、ワークを取り入れ、小グループをつくり担当教員がサポートし、細やかな指導を実施した。また、看護技術に関しては、限られた時間の中で感染対策を行った上で対面授業を実施した。技術習得の不足部分に関しては、母性看護学実習の中にフォローを行った。

実習に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、遠隔実習・対面実習を併用していった。事例を用いて、より臨床での実習に近い形で実習ができるように工夫した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会 日本助産学会 母性衛生学会		2003年4月～現在に至る 2017年3月～現在に至る 2018年4月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
教務委員 (2019年～現在に至る) 研究推進委員 (看護学科/助産別科) (2016年～現在に至る) 助産別科 教務担当/助産師国家試験担当/家族計画実施指導員資格認定担当/アドバイザー担当